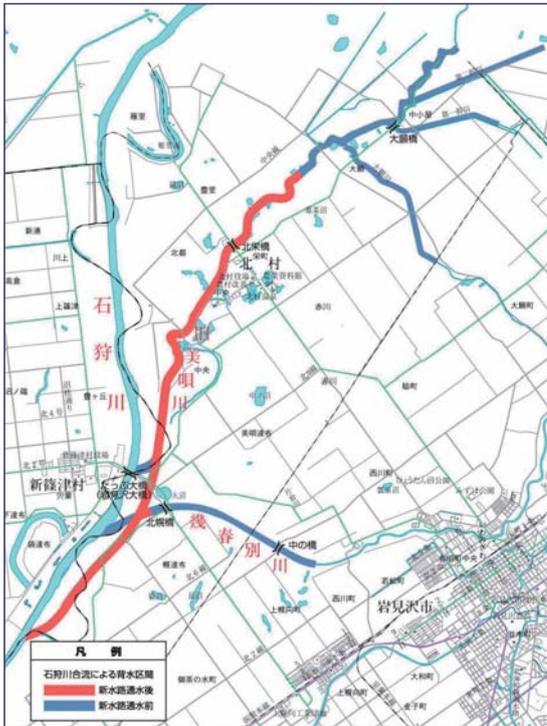


幾春別川新水路事業 ～幾春別川新水路事業の概要

石狩川の中流に位置する支川の幾春別川下流および旧美唄川流域は、泥炭性軟弱低平地帯であることから、石狩川の水位が高くなるとその影響を受け流れが悪くなり、一度大雨が降ると周囲からの流水が流域に滞り、幾度も全域が浸水しました。このため、旧美唄川を幾春別川に合流させ、さらに幾春別川の石狩川への合流点をより石狩川の水位が低くなる下流に移すことにより、石狩川の背水の影響を軽減し、地域の洪水被害を大幅に軽減します。(平成18年完成)



石狩川背水区間・比較平面図

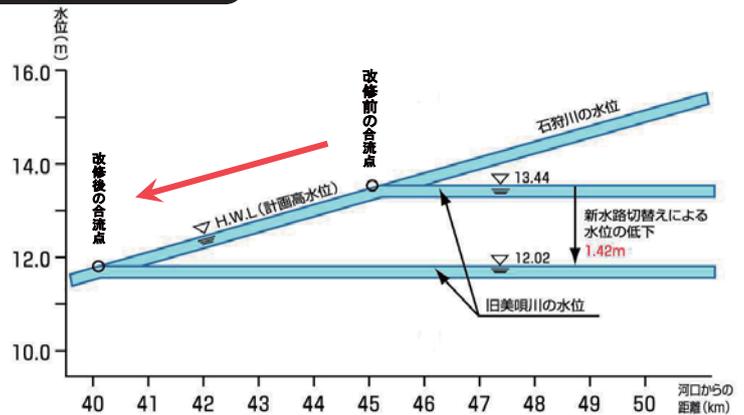


昭和56年8月上旬洪水の被害状況

被害家屋：約 22,500 戸、氾濫面積：614km²



水位の低下変動グラフ



幾春別川新水路事業工事箇所

